

項目	取組名	取組の目的	リーダー	R6		R7		R8		第9期計画指標	
				計画	実績	計画	実績	計画	実績		
普及啓発・本人発信支援	認知症サポーター養成	認知症について正しい知識をもち、できる範囲で見守りや支援を行う人を養成する。	事務局	小学5年生 8校 中学 希望校 三好高 東海学園大学 市職員 職域 希望団体 地域 希望団体 合計 1,500人程度 ※小学校調整と市職員向けは市が調整、その他は事務局調整とする。	小学5年生 8校●●人 中学 希望校●●人 三好高校●●人 東海学園大学●●人 市職員●●人 職域●団体●●人 地域●団体●●人 合計 ●●●人程度	小学5年生 8校 中学 希望校 三好高 東海学園大学 市職員 職域 希望団体 地域 希望団体 合計 1,500人程度 ※小学校調整と市職員向けは市が調整、その他は事務局調整とする。	小学5年生 8校●●人 中学 希望校●●人 三好高校●●人 東海学園大学●●人 市職員●●人 職域●団体●●人 地域●団体●●人 合計 ●●●人程度	小学5年生 8校 中学 希望校 三好高 東海学園大学 市職員 職域 希望団体 地域 希望団体 合計 1,500人程度 ※小学校調整と市職員向けは市が調整、その他は事務局調整とする。	小学5年生 8校●●人 中学 希望校●●人 三好高校●●人 東海学園大学●●人 市職員●●人 職域●団体●●人 地域●団体●●人 合計 ●●●人程度	●認知症初期集中支援チーム利用件数 ⇒12件/年 ●チームオレンジ設置数 ⇒1チーム ●認知症サポーター養成講座受講者数 ⇒1,500人/年 ●一般高齢者における認知症の相談窓口を知っている人の割合 ⇒40% ●本人ミーティング参加人数 ⇒10人	
	登録キャラバン・メイトの活動支援	2人の既存活動者が小学校でひとりで講師として活動できるようになる。また、新たにキャラバンメイトになった人が活動できる。	事務局	・既存2人が小学校で希望数できるように日程調整する。 ・県主催の講座を受講し、新たにキャラバンメイトになった人の意向を確認し、希望にあった活動を支援する。							
	アルzheimer月間における普及啓発	認知症について幅広く知ってもらい、関心や正しい理解を持つことができる。当事者の声の発信の機会を創出できる。	全推進員	・9月のアルzheimer月間に、ライブで認知症のブースを設置する。 ・本の選定に当たっては、当事者発信を考慮する。 ・可能であれば当事者家族経験者の協力を得る。							
	認知症ケアパスの内容充実	認知症の人やその家族の使い勝手を考慮した内容に改善し、認知症の人やその家族が望む情報を入力しやすくなる。	市	・R7版の作成に当たっては、ページ構成の見直しを伴わない軽微な変更を行う。 ・デジタル化社会に対応したケアパスとするため、ホームページへの掲載による情報発信を行う。 ・本人ミーティングの進捗をみながら、可能であればケアパスについて意見を収集する。							

項目	取組名	取組の目的	リーダー	R6		R7		R8		第9期計画指標
				計画	実績	計画	実績	計画	実績	
	本人ミーティング	当事者の声を聴く習慣を作り、当事者の参加支援につなげたり、各種施策に活かすことができる。	おかよし	・ デイサロンえんがわで行っている試行の本人ミーティングを継続し、当事者から話を引き出す手法を試行錯誤する。 ・ 推進員が声をヒントに参加支援ができることは理想的ではあるが、デイサービスのスタッフが不断の活動により参加支援が行えるようにすることを目指す。						
医療・ケア・介護サービス・介護者への支	認知症地域支援推進員の資質向上	認知症地域支援推進員が本市に必要な地域支援、個別支援について学べる機会を確保し、各種取組が認知症の当事者視点で推進できるようにする。	全推進員	・ 新たに推進員に配置される人は、必ず新任向けの東京センターが主催する推進員研修を受講する。 ・ 経験を有する推進員は、現任向けの東京センターが主催する推進員研修を受講する。 ・ 愛知県が国立長寿医療研究センターと協働で開催する研修に参加する。 ・ 愛知県が提供する研修プラットフォームの必須講座を6月までに受講する。						
	認知症初期集中支援チーム	認知症の人又はその疑いのある人、家族に早期に診断や受診支援を行い、本人が望む生活の継続を支援する。	みなよし	・ チームに支援を求めるケースの基準を遅くとも8月までに決定する。 ・ チーム員の異動者が必ず発生することを前提に、伝達研修のあり方を6月までに決め、異動者に受講を促す。						
	認知症疾患医療センターとの連携	トヨタ記念病院が運営しているセンターとのつながりを通じて、個別支援、地域支援を展開できる。	全推進員 市	・ 認知症疾患医療センターが開催する研修に参加する。 ・ 必要時、個別ケースで相談する。 ・ 認知症疾患医療連携協議会の構成員として、関係機関との連携体制構築を進めるため、会議に出席する。						

項目	取組名	取組の目的	リーダー	R6		R7		R8		第9期計画指標
				計画	実績	計画	実績	計画	実績	
援	認知症カフェの普及	必要な人が認知症カフェを利用できるようにする。	市 なかよし	・市広報誌の「認知症カフェ」コーナーの掲載を継続する。 ・9月の図書館ブースを活用してPRを継続する。						
	認知症カフェの開設支援	【目的】 市内に特色の異なる認知症カフェが増えることで、市民の多様なニーズに対応した認知症カフェが提供できる。	なかよし	・喫茶を有する場所で新たな認知症カフェが開設できるように働きかける。 ・認知症カフェ開設マニュアルを活用し、開設支援を行う。開設支援は、マニュアルの使い勝手の検証機会でもあることから必要時は随時改定を行う。						
認知症バリアフリーの推進・若年性認知症	チームみどりんオレンジ伴走支援	チームみどりんオレンジが安定的に活動できるよう必要な支援を行い、三好丘陵地域がグランドゴルフがいつまでも続けられる地域にする。	きたよし	・活動状況の把握方法を考える。 ・伴走支援用のステップアップ講座を開催する。						
	チームオレンジ立ち上げ支援	チームによる早期からの継続支援が地域の中で行えることで、認知症の人やその家族が安心して生活を送ることができる。	きたよし	・チームが立ち上がる際のステップアップ講座の標準的な内容を8月までに決める。 ・希望がある地域に対して標準的な内容を参考に、受講者の意向も踏まえて内容を変更し、講座を開催する。						
	市域を超えた見守り体制の維持	行方不明等の対応において広域的連携を維持し、安心して外出できる地域を目指す。	市	・行方不明発生時にあいちオレンジネットワークを活用する。 ・あいちオレンジネットワーク会議に出席し、ネットワークの安定稼働を協議する。	・あいちオレンジネットワーク活用数 ●●件 ・あいちオレンジネットワーク会議R6.●●出席					
		みよしささえ愛会議を活用して、本人の意向に踏まえた見守りにより安心して外出できる地域を目指す。	全推進員	・行方不明経験者や警察から情報提供があるケースは、原則全件みよしささえ愛会議により見守り体制を検討する。	行方不明の見守りに係るみよしささえ愛会議開催数 ●●回					

項目	取組名	取組の目的	リーダー	R6		R7		R8		第9期計画指標
				計画	実績	計画	実績	計画	実績	
認知症の人への支援・社会参加支援	見守り支援の充実	地域の見守り体制を強化するため、日常生活圏域ごとに行方不明者捜索模擬訓練を実施し、住民が適切な行動が行えるようになる。	全推進員	・日常生活圏域ごとに行政区、コミュニティ等の単位で訓練を実施する。	●●行政区 ●●人参加 ●●行政区 ●●人参加 ●●行政区 ●●人参加 ●●行政区 ●●人参加					
	成年後見制度等の利用促進	認知機能が低下しても安心して生活する上で必要不可欠な金銭管理や身上監護が適切に受けられる。	全推進員	・日常生活自立支援事業や成年後見制度の利用が望ましい個別ケースに対応する際に、本人の意向を尊重するため、可能な限りみよしささえ愛会議を開催し、後見センター職員等との十分な意見交換により適切な支援を行う。	権利擁護を目的とするみよしささえ愛会議開催回数 ●●回					
	消費者安全の推進	消費者トラブルに遭遇しやすい高齢者が適切な情報提供を受け、トラブルの未然防止、早期解決を行うようにする。	市全推進員	・地域包括ケア推進会議に内包している消費者安全確保地域協議会により市から情報提供、注意喚起を行う際に、広く推進員は周知に協力する。 ・消費者トラブルの際は、消費者相談センター等適切な機関に相談する。						